


宮城県

1. 商品名等

商品名	抹茶クリームサンドコッペパン		
商品写真(イメージ等)		商品説明(コンセプト等)	
		<p>本吉響高校2名の生徒によるフレーバー案を、気仙沼パン工房さんに実現していただきました。</p> <p>しっかりとした抹茶の風味を感じながらも、くどさがなく、子どもから大人まで幅広く楽しめる味わいに仕上がっています。</p>	

2. 学校紹介

学校名	宮城県本吉響高等学校	電話	0226-42-2627
住所	宮城県気仙沼市本吉町津谷桜子2-24	F A X	0226-42-2628
担当者	千葉 裕介	遠藤 清文	
U R L	https://hibiki-h.myswan.ed.jp/		
E-mail	hibiki-h@od.myswan.ed.jp		

本校は、昭和21年に「宮城県津谷農林学校」として農林科・農業科の2科を設置し開校しました。その後、昭和48年に「宮城県津谷高等学校」へ校名変更を行い、さらに平成11年には普通科・産業技術科・家政科の3学科を総合学科へ一本化するとともに、「宮城県本吉響高等学校」へと改称しました。そして今年度、創立80周年を迎えます。前身が農林高等学校であることから学校田の他、広大な敷地を保有しています。また、情報処理技術やバイオテクノロジーなどを学ぶ総合実習棟をはじめ、福祉実習室などの実践的な学習設備も整備されています。

さらに、「響生」「知性」「至誠」の校訓のもと、キャッチフレーズとして“Make harmony”を掲げ、人や自然と響き合う心、調和を大切に作る心、豊かな感性を育みながら、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。その実現に向けて、生徒一人ひとりが日々自らを磨いています。

3. 実施科目等

科目名	総合的な探究の時間	単位数	2単位
対象生徒	2名	担当教員数	2名

4. 予算関係(費用)

なし

5. 開発経緯等

本校ではこれまでも毎年、総合的な探究の時間において、気仙沼市内の企業や調理専門学校等の協力をいただきながら、商品開発および販売実習に取り組んできた。しかし、一昨年度までは学園祭という限られた期間・特定の来場者を対象とした販売であったため、開発段階や販売計画において、「購入してもらえるだろう」という意識の甘さがあったのではないかと反省があった。

そこで昨年度は、見ず知らずの一般消費者を対象とした販売を実施し、生徒自身が「商品の味」「パッケージの魅力」「購買意欲を高める広告表現」などについて、より実践的かつ主体的に検討を重ねながら商品開発に取り組んだ。

コラボ企業として、気仙沼市内において全国的に商品を展開している企業を検討した。気仙沼は宮城県北東部に位置し、三陸海岸の豊かな自然に囲まれた地域であり、漁業が盛んで、カツオ・マグロ・カキなどの新鮮な海産物のイメージが強い地域である。そのような地域イメージとは異なる新たな魅力を発信できる商品開発を目指し、企業を模索していたところ、コッペパンの販売を通して全国展開を行っている気仙沼パン工房様に、本事業の趣旨にご賛同いただき、商品開発のコラボレーションを承諾していただくことができた。

7月より、生徒たちはコッペパンのフレーバーについて検討を重ねた。抹茶、ゆずみかん、レアチーズなど、20種類以上の味を考案し、10月にはコラボ企業である気仙沼パン工房様に対してプレゼンテーションを行い、商品化に向けた提案を実施した。その結果、気仙沼パン工房様より、全国展開が可能であり、長期的かつ安定した販売が見込めるフレーバーとして「抹茶」を採用したいとの回答をいただいた。背景には、世界的なスーパーフードブームの中で抹茶の需要が急増し、輸出額が過去最高を更新するなど、「抹茶バブル」とも呼ばれるほど高い人気を集めていることが挙げられる。また、関西地方を訪れる外国人観光客にも販売できる可能性が高いことも、採用理由の一つとなった。

完成した商品は、1月26日より本吉町内で販売が開始され、その後、2月10日より全国での販売がスタートした。

6. 販売形態・期間

有
・
無

7. 協力者等

有
・
無

気仙沼パン工房株式会社

8. 商標登録の有無

有
・
無

9. 今後の課題・展望等

商品の考案や販売にあたっては、コラボ企業である気仙沼パン工房株式会社様より、多くの助言や支援をいただきながら商品開発を進めることができた。一方で、生徒自身の独自性や発想を十分に反映しきれなかった部分もあった。今後は、生徒たちならでの視点やアイデアをより主体的に取り入れた、独自性のある商品開発へと発展させていきたい。